

第6回 議会経費削減に関する検討プロジェクト会議 概要

日時：平成30年11月29日（水）17時40分～18時05分

場所：議事堂6階 601特別委員会室

出席者：議会経費削減に関する検討プロジェクト会議委員（10名）

資料：議会経費削減に関する検討プロジェクト会議事項書

資料1 議会経費に関する各会派意見（一覧）

資料2 三重県の類似団体における議員報酬等

資料 議員派遣実績（平成29年度）

<概要>

委員：ただいまから、第6回「議会経費削減に関する検討プロジェクト会議」を開催する。

本日は、前回に引き続き、旅費以外の経費についての議論を重ねていきたい。

検討に入る前に、お手元の配付の資料の他に、委員から議員派遣の実績についての資料配付の依頼があったが、併せて配付してよいか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、事務局に配付させる。

（資料配付）

それでは、資料について事務局より説明させる。

事務局：資料1は、斜めの字の部分が、前回から変わった部分である。

自由民主党県議団は、政務活動費の期間、2019年5月から4年間を入れている。

公明党は、合計削減額を1億1,169.6万円。前回10%の報酬の削減のところを議長、副議長、議員と計算していなかったもので、改めて計算している。

日本共産党は、報酬については10%の削減で74.7万円。政務活動費は約39%削減で20万円。これに基づく合計削減額が、1億3,066.8万円である。

草の根運動いがは、報酬については10%削減で74.7万円。期間については、2019年5月から4年間。政務活動費は、約30%削減で23.1万円。期間は、2019年5月から4年間。合計削減額が、1億1,169.6万円である。

それから、表の右側の5会派の意見のところ、大志については、報酬は2割カット。期間としては2019年5月から4年間である。

資料2については、三重県の類似団体における議員報酬等である。表にある宮城県から岡山県の7県については、三重県と同じような財政力で且つ人口も類似しているが、三重県はこの7県とほぼ同じような報酬月額になっている。

先程配付の資料は、議員派遣の平成29年度の実績である。行き先、派遣人数、支出額は、表のとおりで合計36名、支出額は912千円である。

委員：それでは、**資料1**の議論をお願いしたい。大志は2割カットすると1億221万円。能動、鷹山は、公明党、草の根運動いがと同じ額になるが、大志だけ、報酬のみの2割カットなので、年間合計削減額は、1億221万円になるということを追加でご報告をさせていただく。

委員：ここに書いてある第三者の審議会等に委ねるということは、議埤条例でいくということになると無くなるので、会派でいろいろと議論をさせていただいた。結論から言うと、何も変わりがない。現在の83万円という報酬は、平成24年の大森教授の調査会の資料でいくと89万円と出ているが、当時から83万円を据え置くという形で今まできているというプロセスがある。三重県に似通った人口、財政力指数等の県についての一覧表をいただいたが、三重県とほぼ一緒である。なんら、多いことでもない。

要するに、定数6増したことによって、6人分の報酬、政務活動をカットしていくことについては、我々の会派としては、それは議論の形としてはおかしいと。非常に財政が厳しい状況の中で、こういったものをカットしていくのであれば、違った観点から検討をしていかなければならない。あくまでも6増に対して1億何千万かの削減をすることについてはおかしいというのが、我々の会派の最終的な意見である。政務活動費の議論についてはよいが、報酬については、このプロジェクト会議で検討するのもおかしいのではないかという議論で、前回出した数字を結論として出した。

委員：各会派に意見に至った経緯も含めて伺いたい。新政みえ、いかがか。

委員：委員がおっしゃるように、報酬と定数6増の話は別の話であって、削減していく一つの目安として、いわば6人分くらいの経費はなんとか削減しようという一つの目安としての議論は当然出てくる。今、自由民主党県議団は別として、公明党、共産党、草の根運動いが、能動、鷹山、大志等を見ると、パーセンテージでカットをする提案で、我々だけ金額ベースなので、会派でも議論をさせていただき、他会派とできるだけ同じようにもっていけるよう、もう一度会派の中で議論をさせていただきたい。

委員：自由民主党県議団としては、こういう状況の中で、年末までに決定させるというのは、非常に拙速であると。だから改選後に、調査会か審査会等を早急に設置して、報酬についての議論をしてはどうかという意見もあったので、これも非常に大事なことであろうということなので、申し伝えておく。

委員：公明党、いかがか。

委員：議員定数の問題と報酬削減の問題は、本来であれば切り離して考えるべきところだが、今回の様々ないきさつの中で、県民の皆様の声に答えなければならないといった部分で、腹をくくって取り組むといった形になっている。

委員：公明党の政務活動費は、4年間ではないが。

委員：ここは、あまり議論はしていなかった。

委員：もう一度詰めていただければと思う。日本共産党いかがか。

委員：私どもは、かねてから報酬なり政務活動費については、見直すべきだと思っているので、この機会にということで提案させていただいた。

委員：日本共産党の期間の確認だが、4年くらいをメドにするのか。

委員：それは全然考えてない。ずっとである。この機会にということで。

委員：草の根運動いが、いかがか。

委員：公明党と同じで、時期だけが2019年5月から4年間である。およそ、1億1千万円程度で結果としては6人分ということになるが、意識したわけではないが、定数議論の時も6人分の経費というのをかなり県民の方に周知された結果かもしれないが、特に県民の皆さんの関心としては、その1億という数字が気になっているところではないかと。それが結果として1億1千万円程度となったということである。拙速だというご意見もあったが、速やかに年内に決着を諮る努力をやっていきたいと思う。

委員：全体を見渡すと、報酬の方は非常に幅があると認識しており、どのようにもっていくか検討しているところであるが、新政みえだけ削減額が金額表示であり、パーセンテージに置き換えての対応も検討いただけるということなので、今一度ご検討いただければと思う。合計削減金額が1億円規模というのが7会派ということも、大きなポイントと思う。

鷹山は、報酬も政務活動費も恒久的にという考えで、共産党も同じである。実際の事務的な処理として恒久的に変えるというのは、すんなりいくのか。

事務局：いわゆる審議会は関係ないので、結局は、条例の附則にするか、本則を変えるかということだけなので、どちらでも対応できる。

委員：4年間の附則で決めれば、4年後に一回議論が必ずある。本則を変えれば、そういう議論なしにずっとそのままいってしまう。いずれにしても、金額ベースで提案しているので、パーセンテージも含めて、会派であり方を検討させていただきたいと思っている。

委員：自由民主党県議団も、議論はもう一度させていただく。少しでもカットできるのであれば考えていきたい。

委員：概ね、10会派全てのご意見を出していただいたので、またこれを会派に持ち帰っていただき、次回がほぼ最終として、プロジェクト会議としての各派の報酬、政務活動費の意見として承るということでもよろしいか。その後に副座長と検討をさせていただき、方向性をどのように示すかも含め、次回、各会派の意見をいただいた上で、副座長と検討させていただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

その他の経費のところ、ご意見いただいている部分については、これも検討課題として報告させていただきたい。

委員：我が会派では、ペーパーレスのことについても議論できる場をいただきたい。

委員：それでは、次回の日程は、12月5日（水）に第7回の会議をさせていただきたい。その時に、各会派の報酬と政務活動費の考え方について、このプロジェクト会議での最終的なご意見として承ればと思うので、よろしく願います。ご協議いただく事項は以上だが、他に何か。

（「なし」の声あり）

なければ、以上で第6回プロジェクト会議を終了する。